

InfiniVerse®

予測分析、サポート、モニタリング、およびレポート作成をクラウドベースで行う

何もかもがペタバイト規模で変化しています。特に、企業のIT運用においてはそれが顕著です。何百ペタバイトの規模を使用する企業を含め、グローバルにストレージを運用するお客様が求めているのは、インフラストラクチャ全体に対して、容量やパフォーマンスの予測分析、モニタリング、およびレポート作成を行い、問題が発生する前に潜在的な課題に対処できるようなシンプルなソリューションです。グローバルな利用者基盤(インストールベース)における数百万のデータポイントをリアルタイムで分析することにより、運用効率や可用性の最適化に必要な状況分析結果をお客様に提供することが可能です。

InfiniVerse® はセキュアなクラウドベースのサービスとしてご利用いただけるソリューションで、**追加費用は発生しません。**

容易に利用可能

クリック1つで、複数のサイトやデータセンターにまたがるストレージインフラ全体を確認できます。InfiniVerseを使用すると、インターネットに接続されたあらゆるデバイス上のHTML5に準拠したブラウザから、全システムのステータス、容量、およびパフォーマンスを見ることができます。より詳細な情報には、システムの健全性や容量消費率、内部レイテンシの測定結果と比較したSAN/WANのパフォーマンスなどの主要な指標が含まれます。

パワフルな分析力

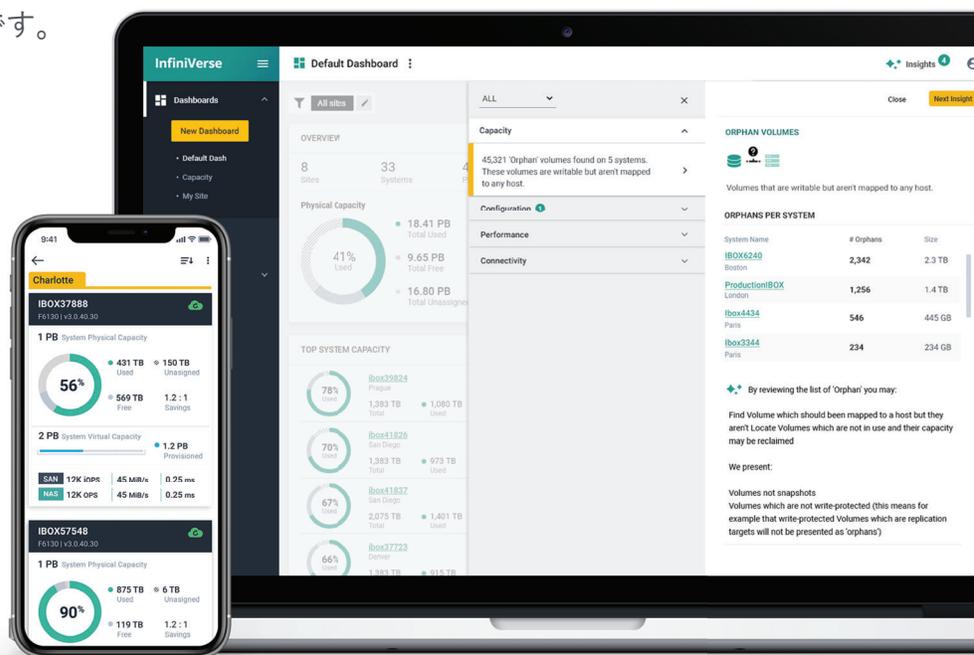
分析は、ビッグデータの収集から始まります。拡大を続けるInfinidatのInfiniBoxインストールベースから得られる粒度の細かいテレメトリにより、主なアプリケーションや一般的なワークロードに関する規則性が明らかになり、これを利用して強力なインサイトを得られるようになります。これらのインサイトにより、サービスレベル契約(SLA)の達成やデータライフサイクル全体に対するストレージコストの管理が容易になります。

安全なインフラストラクチャ

AWS(アマゾン ウェブ サービス)上に構築されたInfiniVerseは、メタデータの転送を最適化するセキュアなインターフェース

powered by aws

SCALE TO WIN



セットを利用しています。(実際の顧客データが顧客の保護された環境以外で使用されることはありません。)Infinidatは、追加のセキュリティレイヤーやAIを使用した分析を備え、データライフサイクルの強力なインサイトを提供します。

TCOをさらに削減

結局のところ、利用されなければ新しいツールに価値はありません。使用中の監視ツールや管理ツールにInfiniVerseを統合することで、容量プランニングやパフォーマンス分析、未使用容量の割り当て、ストレージシステム外で発生するパフォーマンスボトルネックの特定などに費やす時間の削減が可能になり、コストの削減につながります。このような生産性の向上により、細かなインフラ管理ではなく、ビジネスに注力できるようになります。

INFINIDAT

詳細なインサイト

新たなワークロードをどこに割り当てるべきかお悩みですか？
 推奨されたアップグレードが本当に必要なか確信が持てずにはいますか？
 ストレージネットワークのパフォーマンスがボトルネックを起こしている箇所の特定に苦勞していますか？
 InfiniVerseは、御社システムのパフォーマンスプロファイルを、InfiniBoxインストールベースから報告されたデータと比較し、最適なワークロードの割り当てや、容量稼働率の改善、発生する前の潜在的なパフォーマンスボトルネックの特定を可能にします。

根本原因を迅速に特定

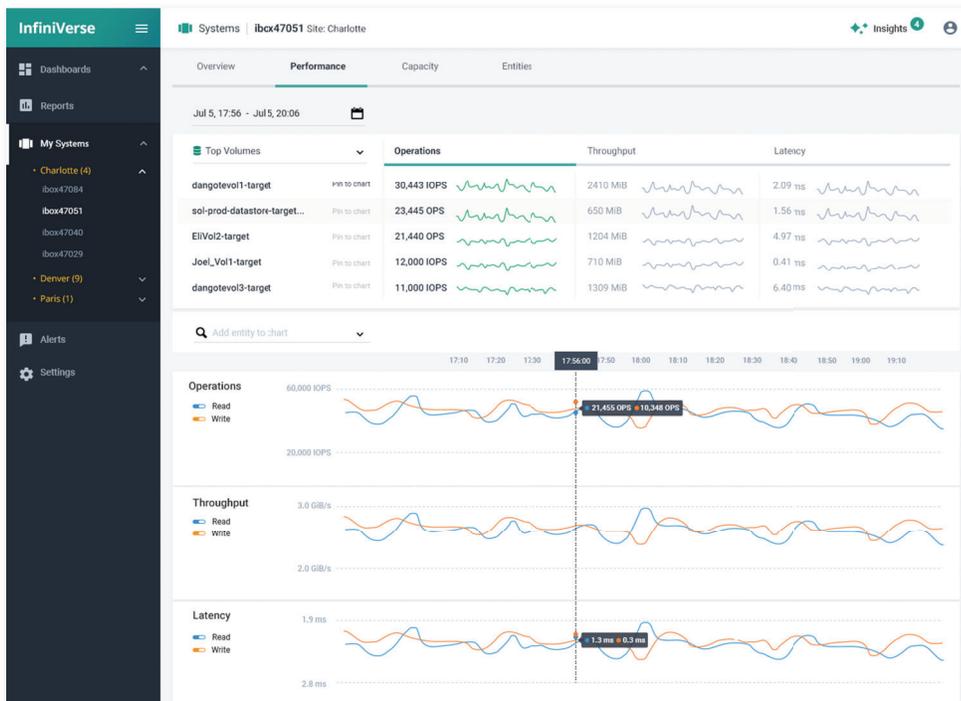
ストレージシステムの範囲を超えた包括的なテレメトリを使用することで、パフォーマンス問題において常に原因として可能性があるストレージを排除できるため、迅速な根本原因分析が可能になります。

手元に届くカスタマイズ可能なレポート

多数のウィジェットが設定されたダッシュボードでも定期レポートに変換可能です。必要に応じてメールボックスに配信されるため、詳細なレビューを行うことができます。

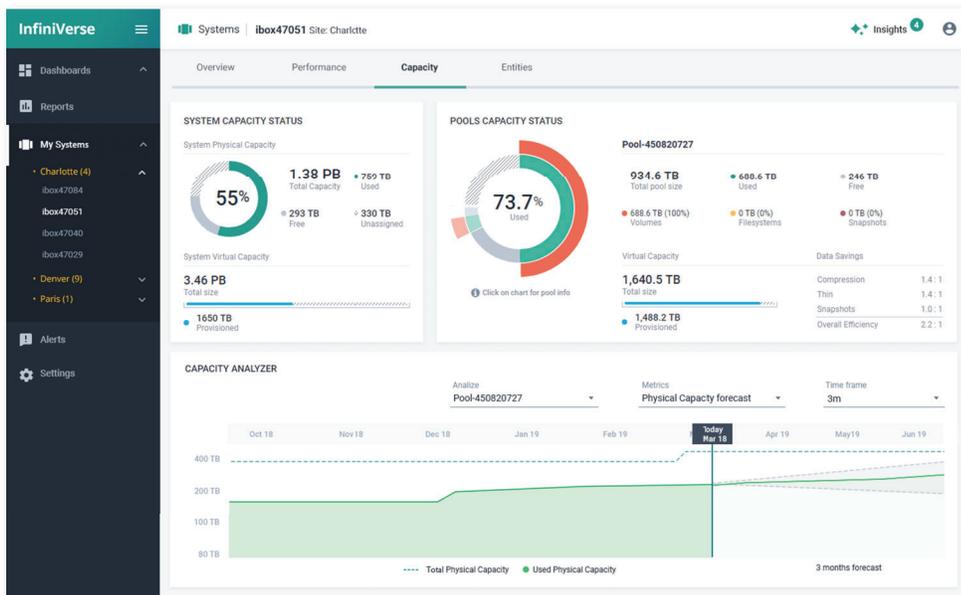
要件

INFINIBOX 4.0以降、CALL-HOMEをイネーブルにしたINFINIMETRICS 4.2.X、HTML5をサポートする最新のウェブブラウザ。



パフォーマンスを調査し、可視性を向上させ、予測不能を排除する

InfiniBoxのインストールベースから得られるペタバイト単位の大量データを利用することで、将来的にパフォーマンスのボトルネックを引き起こす可能性のある、ホストやプール、ボリューム、あるいはファイルシステムレベルにおけるパフォーマンスの異常値を、簡単に素早く特定できます。



システム全体にわたる容量稼働状態を確認

一括管理システムを活用して、全プロトコルの容量稼働率をシンプルに表示し、確認できます。履歴データを使用すると、ボリュームやプール、ファイルシステム、整合性グループの傾向を特定できます。データの増加を予測し、オンデマンドで使用される容量を特定することで、経費管理を合理化します。